

研修機関が公表すべき情報の内訳

☆法人情報

法人格	学校法人
法人名称	学校法人 栗原学園
住所等	〒090-0817 北見市常盤町3丁目14 (0157) 24-1560 URL <a href="http://www.kurihara.ac.jp/">http://www.kurihara.ac.jp/</a>
代表者	理事長 柏尾 典秀
研修事業担当理事	棧 邦雄 (学園長)

☆研修機関情報

事業所名称	オホーツク社会福祉専門学校 〒090-0817 北見市常盤町3丁目14 (0157) 24-1560																					
理念	介護される人の思いに寄り添い、根拠に基づき考えるケアができる人材の育成																					
学則	<p style="text-align: center;"><b>学 則</b></p> <p>1 研修の目的 基礎的な介護業務を行うことができるよう、介護者として最低限度の知識・技術を習得させる</p> <p>2 研修の名称 北海道介護職員初任者研修</p> <p>3 研修の要旨</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th>事業所の所在地</th> <th>研修形態</th> <th>修業年限</th> <th>研修機関</th> <th>定員(人)</th> <th>受講料(円)</th> <th>受講対象者</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>北見市</td> <td>昼間</td> <td>8ヶ月</td> <td>8ヶ月</td> <td>100</td> <td>—</td> <td>学校法人栗原学園学生</td> </tr> <tr> <td>北見市</td> <td>昼間</td> <td>8ヶ月</td> <td>8ヶ月</td> <td>40</td> <td>4,860</td> <td>委託訓練又は求職者支援訓練訓練生</td> </tr> </tbody> </table> <p>4 受講手続き (1) 募集期間 学校法人栗原学園学生については入学許可日より募集し、開始3日前に締め切る。委託訓練又は求職者支援訓練(対象訓練科目)については、当校募集は行わない。 (2) 授業料納入方法 学校法人栗原学園学生の受講料(テキスト・実習費を含む)は授業の一環とみなし徴収しない。 (3) 授業料返還方法 授業の一環であり徴収していないため、理由の如何を問わず受講料は一切返還しない。</p>	事業所の所在地	研修形態	修業年限	研修機関	定員(人)	受講料(円)	受講対象者	北見市	昼間	8ヶ月	8ヶ月	100	—	学校法人栗原学園学生	北見市	昼間	8ヶ月	8ヶ月	40	4,860	委託訓練又は求職者支援訓練訓練生
事業所の所在地	研修形態	修業年限	研修機関	定員(人)	受講料(円)	受講対象者																
北見市	昼間	8ヶ月	8ヶ月	100	—	学校法人栗原学園学生																
北見市	昼間	8ヶ月	8ヶ月	40	4,860	委託訓練又は求職者支援訓練訓練生																

## 5 カリキュラム

科目及び研修時間は、次に掲げるとおりとする。

科 目 名	研 修 時 間
1 職務の理解	6 時間
2 介護における尊厳の保持・自立支援	9 時間
3 介護の基本	6 時間
4 介護・福祉サービスの理解と医療の連携	9 時間
5 介護におけるコミュニケーション技術	6 時間
6 老化の理解	6 時間
7 認知症の理解	6 時間
8 障がいの理解	3 時間
9 こころとからだのしくみと生活支援技術	7 5 時間
10 振り返り	4 時間
合 計	1 3 0 時間

## 6 研修の免除

免除科目は次の通りとする。ただし、受講者からの所定の免除申請があった場合に限る。

免除条件	免除可能科目
看護師	すべての科目を免除
居宅介護従事者養成研修 (1 級課程・2 級課程) 修了者	すべての科目を免除

## 7 主要テキスト

介護職員初任者研修テキスト 1・2 中央法規出版

## 8 修了認定

### (1) 出欠の確認方法

各教科の開始前に教科担任が出欠確認を行う。その際、出欠を出欠簿に記載する。

### (2) 成績の評定方法

通学による講習については、「介護職員初任者研修における目標、評価の指針」（北海道介護職員初任者研修実施要綱 別紙 1）中「各科目の到達目標、評価、内容」において定める「修了時の評価ポイント」に沿って、各受講生の知識・技術等の習得度を評価するものとする。

### (3) 修了の認定方法

- ・修了評価の方法は、講師による評価及び筆記試験により行う。
- ・介護技術の評価は、別紙 1 における研修科目「9. こころとからだのしくみと生活支援技術」の中で、介護技術の習得が講師により評価された場合とする。
- ・研修教科のすべてに出席し、且つ筆記試験 1 時間（カリキュラム時間数以外）による修了評価で、6 割以上の正答を得た者を修了者とする。

### (4) 修了証明書

修了が認定されたものには、別紙 1、2 の修了証明書を交付する。

9 補講の取り扱い

(1) 修了認定試験で6割の正答を得られたが、科目ごとに一つでもその科目すべてが不正解であった場合は、その科目は知識・技術の習得が十分でないと判断し補講を実施、その科目の知識の習得を図る。

(2) 研修の一部を欠席した者で、やむを得ない事情があると認められる者については、補講を行うことにより当該科目を修了したものとみなす。ただし、補講の上限は通信形式で実施できる上限時間を次のとおりとし、通信形式で認められない科目等においてはすべて面接授業で補講を実施する。

科目	通信形式で実施できる上限時間
1. 職務の理解	0 時間
2. 介護における尊厳の保持・自立支援	7.5 時間
3. 介護の基本	3 時間
4. 介護・福祉サービスの理解と医療との連携	7.5 時間
5. 介護におけるコミュニケーション技術	3 時間
6. 老化の理解 3 時間	3 時間
7. 認知症の理解	3 時間
8. 障害の理解	1.5 時間
9. こころとからだのしくみと生活支援技術	12 時間
10. 振り返り	0 時間
合計	40.5 時間

(3) 補講に対する授業料は取らない。

(4) 研修課程別の就業年限を上限時間数とする。

10 退学規定

(1) 受講者が退学しようとするときは、所定の退学届を提出すること。

(2) 受講者が校会の定める諸規定を守らず、又は受講者の本分にもとる次の行為のあったときには、退学を命ずることがある。

ア 性行不良で改善の見込みがないと認められるとき。

イ 学力劣等で修了の見込みがないと認められるとき。

ウ 正当な理由がなくして出席が常でない者。

エ 研修の秩序を乱しているもの。

11 講師 別紙3のとおり

12 実習施設 なし

13 その他の留意事項

研修事業の実施に当たり、次のとおり必要な措置を講じることとする。

(1) 研修の受講に際して、研修開始日までに本人確認を行う。本人確認の方法は次の公的証明書（住民票・健康保険証・運転免許証・パスポート等）の提出等により行うものとし、本人確認できない場合は、受講の拒否又は修了の認定をおこなわないものとする。

(2) 事業実施により知り得た受講者等の個人情報をみだりに他人に知らせ、又は不当な目的にしない。

	(3) 受講者が実習等で知り得た個人情報をみだりに他人に知らせ、又は不当な目的に使用することのないよう受講者の指導を行う。																																														
研修施設	オホーツク社会福祉専門学校 介護福祉科校舎 (講義) 5・4階普通教室 (実技) 3階介護 入浴実技室																																														
設備	<p>教育用機械器具及び模型</p> <table border="1"> <tr> <td>実習用モデル人形</td> <td>2体</td> <td>視聴覚機器</td> <td>43器</td> </tr> <tr> <td>人体骨格模型</td> <td>1体</td> <td>障害者用調理器具・食器類</td> <td>食器10セット</td> </tr> <tr> <td>成人用ベッド</td> <td>10床</td> <td>和式布団一式</td> <td>2式</td> </tr> <tr> <td>移動用リフト</td> <td>1台</td> <td>吸引装置一式</td> <td>4式</td> </tr> <tr> <td>スライディングボード・マット</td> <td>1台</td> <td>経管栄養用具一式</td> <td>4式</td> </tr> <tr> <td>車いす</td> <td>20台</td> <td>処置台又はワゴン</td> <td>4台</td> </tr> <tr> <td>簡易浴槽</td> <td>2槽</td> <td>吸引訓練モデル</td> <td>4体</td> </tr> <tr> <td>ストレッチャー</td> <td>5個</td> <td>経管栄養訓練モデル</td> <td>4体</td> </tr> <tr> <td>排せつ用具</td> <td>男女各8個</td> <td>心肺蘇生訓練用器材一式</td> <td>1式</td> </tr> <tr> <td>歩行補助つえ</td> <td>10本</td> <td>人体解剖模型</td> <td>1体</td> </tr> <tr> <td>盲人安全つえ</td> <td>8本</td> <td></td> <td></td> </tr> </table>			実習用モデル人形	2体	視聴覚機器	43器	人体骨格模型	1体	障害者用調理器具・食器類	食器10セット	成人用ベッド	10床	和式布団一式	2式	移動用リフト	1台	吸引装置一式	4式	スライディングボード・マット	1台	経管栄養用具一式	4式	車いす	20台	処置台又はワゴン	4台	簡易浴槽	2槽	吸引訓練モデル	4体	ストレッチャー	5個	経管栄養訓練モデル	4体	排せつ用具	男女各8個	心肺蘇生訓練用器材一式	1式	歩行補助つえ	10本	人体解剖模型	1体	盲人安全つえ	8本		
実習用モデル人形	2体	視聴覚機器	43器																																												
人体骨格模型	1体	障害者用調理器具・食器類	食器10セット																																												
成人用ベッド	10床	和式布団一式	2式																																												
移動用リフト	1台	吸引装置一式	4式																																												
スライディングボード・マット	1台	経管栄養用具一式	4式																																												
車いす	20台	処置台又はワゴン	4台																																												
簡易浴槽	2槽	吸引訓練モデル	4体																																												
ストレッチャー	5個	経管栄養訓練モデル	4体																																												
排せつ用具	男女各8個	心肺蘇生訓練用器材一式	1式																																												
歩行補助つえ	10本	人体解剖模型	1体																																												
盲人安全つえ	8本																																														

### ☆研修の概要

研修の概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>●対象・・・学校法人栗原学園 オホーツク社会福祉専門学校 歯科衛生士科 学生 オホーツク社会福祉専門学校 こども未来学科 学生</li> <li>●研修スケジュール 歯科衛生士科：入学後8ヶ月以内 計130時間 (修了試験1時間含めず) 4月中旬より10月下旬 別紙4のとおり</li> <li>●定員 オホーツク社会福祉専門学校 歯科衛生士科 30名</li> <li>●募集・・・入学後担当教員より指示。HR等で公開</li> <li>●費用・・・本科授業料に含まれる</li> <li>●留意事項…130時間の受講と修了試験で合格とみなした者に資格を付与する</li> </ul>
課程責任者	オホーツク社会福祉専門学校 学校長 棧 邦雄
研修カリキュラム	<ul style="list-style-type: none"> <li>●科目別シラバス</li> <li>1 職務の理解 介護の社会化と尊厳の保持、 キャリアパスと介護初任者研修 OJT/Off-JTを通じた学習の継続</li> <li>2 介護における尊厳の保持・自立支援 介護サービスの社会的役割、 福祉理念と介護サービスの意義 サービス提供の基本視点、 あるべき主体的な生活 要介護状態の原因疾患について、 介護予防とは、 介護予防活動の目標、</li> </ul>

介護予防活動を支える5つの考え方

- 3 介護の基本  
介護の専門性と他職種連携、 職業倫理と社会的責任、 感染対策の基本知識
- 4 介護・福祉サービスの理解と医療との連携  
介護保険制度の概要としくみ、 医療行為と非医療行為、 成年後見制度  
リハビリテーションの目的、 障害者の自立、 障害者に関する法・制度
- 5 介護におけるコミュニケーション技術  
利用者・家族とのコミュニケーション  
他職種連携とコミュニケーション、 観察と記録
- 6 老化の理解  
感覚と知覚の変化、 感情の変化、 身体的・精神的変化と病気  
生活習慣病とメタボリックシンドローム  
高齢者に多い病気と日常生活の留意点
- 7 認知症の理解  
認知症の初期症状・診察・診断、 認知症の種類と原因  
中核症状、 認知症の人への基本的対応、 認知症家族への支援
- 8 障害の理解  
障害とは、 障害の受容、 ノーマライゼーションとは  
障害の種類と生活上の困難
- 9 ことごとからだのしくみと生活支援技術  
加齢に伴う変化と心理、 自己表現と生きがい  
骨格・関節・筋の名称とはたらき、 基本動作とボディメカニクス、  
神経系、 バイタルチェック、 家事支援の目的と守秘義務  
調理の基本と栄養素、 加齢による身体変化と調理工夫  
食中毒菌と予防対策、 掃除の基本と洗剤の種類  
洗濯の原理と汚れの性質、 被服の基本縫い  
住宅内事故の状況と原因、 玄関と階段の採寸と手すり  
照明と採光、 空調管理、 福祉用具の活用  
身体の清潔の介護：清拭・手浴・足浴、 ケリーパッドとベッド上洗髪  
鼻・爪・耳・髭剃りの手入れ、 口腔の仕組みと口腔ケア・口腔清拭、  
口の体操・義歯の手入れ、 体位の種類と体位交換介助、  
褥瘡の要因、 部位、 予防 衣服の着脱、 移乗介助、  
車椅子の構造と操作、 ガイドヘルプ、 食事介助、 入浴介助  
排泄に関する身体構造と介助、 ベッドメイキング、 ターミナルケア

●科目別時間数・担当教官

科目別/科目別特徴	研修時間	担当教官
1 職務の理解（講義）	6時間	寺本、鈴木、進、門脇
2 介護における尊厳の保持・自立支援（講義）	9時間	進、間山、藤田
3 介護の基本（講義）	6時間	亀山、畠山、磯江 門脇、中川
4 介護・福祉サービスの理解と医療の連携（講義）	9時間	田中、進、鈴木
5 介護におけるコミュニケーション技術（講義）	6時間	佐藤、鈴木
6 老化の理解（講義）	6時間	間山、佐藤、吉澤
7 認知症の理解（講義）	6時間	畠山、磯江、福岡
8 障害の理解（講義）	3時間	吉澤、福岡
9 ことごとからだのしくみと生活支援技術	75時間	寺本、亀山、畠山

			田中、大友、佐藤、 田村、鈴木、吉澤 福岡	
10 振り返り		4 時間	亀山、磯江、福岡	
合 計		130 時間		
<p>●修了評価の方法          &lt;修了評価の方法&gt; 130 時間の全課程受講終了後、1 時間の修了認定試験を実施する          &lt;評 価 者 &gt; 評価者は各担当教員とする          &lt;再履修基準&gt; 6 割を合格基準とし、満たないものは再履修を行う</p>				
講師情報	●講師情報			
	講 師 名	担 当 科 目	資 格 名	専兼別
	亀山 直樹	3 介護の基本 ①介護職の役割、専門性と多職種の連携 9 ところとからだのしくみと生活支援技術 ⑦移動・移乗に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護 ⑧食事に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護 ⑨入浴、清潔保持に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護 10 振り返り ①振り返り ②就業への備えと研修終了後における継続的な研修	介護福祉士	専
	畠山 友子	3 介護の基本 ②介護職の職業倫理 7 認知症の理解 ②医学的側面からみた認知症の基礎と健康管理 9 ところとからだのしくみと生活支援技術 ⑧入浴、清潔保持に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護 ⑩排泄に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護 ⑪睡眠に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護 ⑬介護過程の基礎的理解	介護福祉士 ケアマネジャー 福祉系学校教員	専
田中 由佳	4 介護・福祉サービスの理解と医療の連携 ②医療との連携とリハビリテーション ③障害者総合支援制度及びその他制度 9 ところとからだのしくみと生活支援技術 ④生活と家事 ⑤快適な居住環境整備と介護	福祉系学校教員	兼	

	大友 佳女	<p>9 ころとからだのしくみと生活支援技術</p> <p>①介護の基本的な考え方</p> <p>②介護に関するころのしくみの基礎的理解</p> <p>③介護に関するからだのしくみの基礎的理解</p> <p>⑫死にゆく人に関連したころとからだのしくみと終末期介護</p> <p>⑬介護過程の基礎的理解</p> <p>⑭総合生活支援技術</p>	介護福祉士	専
	進 敬	<p>1 職務の理解</p> <p>①多様なサービスの理解</p> <p>②介護職の仕事内容や働く現場の理解</p> <p>2 介護における尊厳の保持・自立支援</p> <p>①人権と尊厳を支える介護</p> <p>②自立に向けた介護</p> <p>4 介護・福祉サービスの理解と医療の連携</p> <p>①介護保険制度</p>	福祉系学校教員	兼
	間山 捷平	<p>2 介護における尊厳の保持・自立支援</p> <p>①人権と尊厳を支える介護</p> <p>②自立に向けた介護</p> <p>6 老化の理解</p> <p>①老化に伴うころとからだの変化と日常</p> <p>②高齢者と健康</p>	福祉系学校教員	兼
	磯江 紀代子	<p>3 介護の基本</p> <p>①介護職の役割、専門性と多職種の連携</p> <p>②介護職の職業倫理</p> <p>③介護における安全の確保とリスクマネジメント</p> <p>④介護職の安全</p> <p>7 認知症の理解</p> <p>④家族への支援</p> <p>10 振り返り</p> <p>②就業への備えと研修終了後における継続的な研修</p>	介護福祉士 ケアマネジャー 福祉系学校教員	兼
	佐藤 領子	<p>5 介護におけるコミュニケーション技術</p> <p>②介護におけるコミュニケーション</p> <p>6 老化の理解</p> <p>①老化に伴うころとからだの変化と日常</p> <p>9 ころとからだのしくみと生活支援技術</p> <p>①介護の基本的な考え方</p> <p>②介護に関するころのしくみの基礎的理解</p> <p>③介護に関するからだのしくみの基礎的理解</p> <p>⑫死にゆく人に関連したころとからだのしくみと終末期介護</p>	准看護師	兼
	藤田 礼三	<p>2 介護における尊厳の保持・自立支援</p> <p>①人権と尊厳を支える介護</p>	福祉系学校教員	兼

	門脇 ひとみ	1 職務の理解 ①多様なサービスの理解 ②介護職の仕事内容や働く現場の理解 3 介護の基本 ③介護における安全の確保とリスクマネジメント ④介護職の安全	福祉系学校教員	専
	中川 一恵	3 介護の基本 ①介護職の役割、専門性と多職種の連携 ②介護職の職業倫理 5 介護におけるコミュニケーション技術 ②介護におけるチームコミュニケーション	福祉系学校教員	専
	田村 智美	9 こころとからだのしくみと生活支援技術 ⑦食事に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護	福祉系学校教員	専
	吉澤 親代	6 老化の理解 ①老化に伴うこころとからだの変化と日常 ②高齢者と健康 8 障害の理解 ①障害の基礎的理解 ②障害の医学的側面、生活障害、心理・行動の特徴、 かかわり支援等の基礎知識 9 こころとからだのしくみと生活支援技術 ⑫死にゆく人に関連したこころとからだのしくみと 終末期介護	看護師 福祉系学校教員	専
	福岡 太一	7 認知症の理解 ①認知症を取り巻く状況 ②認知症に伴うからだの変化と日常生活 8 障害の理解 ③家族の心理、かかわり支援の理解 9 こころとからだのしくみと生活支援技術 ①介護に関するこころのしくみの基礎的理解 ⑦移動・移乗に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護 10 振り返り ⑩振り返り	介護福祉士 ケアマネジャー 福祉系学校教員	専
	寺本奈保美	1 職務の理解 ①多様なサービスの理解 ②介護職の仕事内容や働く現場の理解 9 こころとからだのしくみと生活支援技術 ①介護の基本的な考え方 ②介護に関するこころのしくみの基礎的理解 ④生活と家事 ⑤快適な居住環境整備と介護 ⑧食事に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護		専



	鈴木亮平	1 職務の理解 ①多様なサービスの理解 4 介護・福祉サービスの理解と医療の連携 ①介護保険制度 ②医療との連携とリハビリテーション ③障害者総合支援制度及びその他の制度 5 介護におけるコミュニケーション技術 ①介護におけるコミュニケーション ②介護におけるチームコミュニケーション 9 ころとからだのしくみと生活支援技術 ①介護の基本的な考え方 ②介護に関するころのしくみの基礎的理解 ⑥整容に関連したころとからだのしくみと自立に向けた介護	介護福祉士 ケアマネジャー 福祉系 学校教員	専
--	------	--	---------------------------------	---

実績	●過去の研修実施回数と参加人数（訪問介護員2級・3級含）				
		実施年度	期 間	参加人数	備 考
	1	平成12年	平成13年1月15日 ～平成13年4月25日	37名	2級
	2	平成13年	平成13年6月1日 ～平成13年8月31日	25名	2級
	3	平成14年	平成14年6月4日 ～平成14年7月29日	40名	2級
	4	平成14年	平成14年11月8日 ～平成14年11月29日	50名	3級
	5	平成15年	平成15年1月15日 ～平成15年4月25日	45名	2級
	6	平成15年	平成15年6月9日 ～平成15年8月8日	40名	2級
	7	平成16年	平成16年1月19日 ～平成16年4月30日	41名	2級
	8	平成16年	平成16年6月7日 ～平成16年8月13日	36名	2級
	9	平成17年	平成17年1月17日 ～平成17年4月28日	35名	2級
	10	平成17年	平成17年6月6日 ～平成17年8月26日	20名	2級
	11	平成18年	平成18年1月17日 ～平成18年4月28日	28名	2級
	12	平成18年	平成18年6月5日 ～平成18年8月2日	23名	2級
	13	平成19年	平成19年1月22日 ～平成19年4月20日	16名	2級
	14	平成20年	平成20年1月21日 ～平成20年4月20日	20名	2級
15	平成20年	平成20年4月15日 ～平成20年12月4日	34名	2級	

16	平成21年	平成21年4月14日 ～平成21年12月15日	36名	2級
17	平成22年	平成22年4月12日 ～平成22年9月30日	22名	2級
18	平成22年	平成22年4月13日 ～平成22年11月25日	49名	2級
19	平成23年	平成23年4月12日 ～平成23年9月9日	22名	2級
20	平成23年	平成23年4月13日 ～平成23年12月2日	56名	2級
21	平成24年	平成24年5月29日 ～平成24年8月29日	56名	2級
22	平成24年	平成24年4月13日 ～平成24年9月11日	16名	2級
23	平成25年	平成25年4月23日 ～平成25年8月17日	29名	2級
24	平成25年	平成25年4月12日 ～平成25年9月10日	13名	2級
25	平成26年	平成26年5月20日 ～平成13年8月31日	56名	初任者研修
26	平成26年	平成26年4月11日 ～平成26年9月4日	10名	初任者研修
27	平成27年	平成27年4月21日 ～平成27年9月8日	50名	初任者研修
28	平成28年	平成28年4月14日 ～平成28年7月21日	38名	初任者研修
29	平成28年	平成28年4月14日 ～平成28年9月6日	8名	初任者研修
30	平成29年	平成29年4月17日 ～平成29年9月4日	26名	初任者研修
31	平成29年	平成29年4月19日 ～平成29年9月13日	40名	初任者研修
32	平成29年	平成29年4月19日 ～平成29年10月23日	28名	初任者研修
33	平成30年	平成30年4月16日 ～平成30年9月4日	8名	初任者研修
34	平成30年	平成30年4月16日 ～平成30年9月3日	39名	初任者研修
35	平成30年	平成30年4月16日 ～平成30年10月31日	26名	初任者研修
36	令和1年	平成31年4月15日 ～令和1年9月5日	8名	初任者研修
37	令和1年	令和1年10月2日 ～令和2年1月24日	4名	初任者研修
38	令和2年	令和2年5月7日 ～令和2年9月11日	14名	初任者研修
39	令和2年	令和2年11月16日 ～令和2年2月18日	17名	初任者研修
40	令和3年	令和3年4月15日	16名	初任者研修

			～令和3年9月9日		
	41	令和4年	令和3年11月5日 ～令和4年2月	11名	初任者研修
	42	令和5年	令和4年4月18日 ～令和4年2月17日	11名	初任者研修
	合 計			1199名	
連絡先等	<ul style="list-style-type: none"> <li>●申込み 本学園オホーツク社会福祉専門学校の学生を対象とし、HRなどで申込を行う</li> <li>●法人・事業所の苦情対応者 学校長 棧 邦雄 (0157) 24-1560</li> </ul>				